学校だより 令和4年度 9月号　NO．5

のびる ほどっ子！

ほっとな未来へ 3C!

令 和 4 年 8 月 3 1 日
横浜市立保土ケ谷小学校
学校長 小川 克之

夏の風物詩

学校長　小川　克之

７月21日（木）から始まった37日間の夏休みも終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。夏休みはいかがお過ごしでしたか。例年より早い梅雨明けで、今年は６月に気温が 35℃を超える日もあり、寝苦しい日も続きました。ようやく秋の気配が少しずつ感じられるようになってきましたが、日中は相変わらず日差しが強いです。

夏の風物詩といえば、盆踊り、花火、海水浴（プール）、夕立（ゆうだち）、せみ時雨、虫捕り・・・等たくさん挙げられますが、ここ数年見かけなくなったり、感じられなくなったりすることが増えてきたように思います。

コロナの影響にもよりますが、地域の夏祭りや盆踊りが行われなくなりました。８月に入ると近くの公園から流れる盆踊りの曲に耳を傾けながら、また山下公園やみなとみらいから打ち上がる花火の壮大さ、華麗さに夏を感じることが多かったのですが、ここ数年は夏祭りも中止となり、大規模な花火大会も開催されなくなりました。夏は海水浴やプールに行くことも多いと思いますが日中の気温も 35℃を超える日も珍しくなくなったため、10 年以上前は日焼け＝小麦色の肌、健康的というイメージでしたが、現在はそのイメージも崩れ、日焼け＝火傷、体によくないイメージが定着してきました。

夕立（ゆうだち）と言う言葉も聞かなくなってきました。私が小学生の頃は、夏の晴れた日の夕方ににわか雨が降り、その後涼しく風が吹き、気温が下がることが何日もありました。
夕立が降ると、日中とは打って変わり、涼しい風が心地よく、縁側でスイカを食べたりアイスクリームを食べたりしながら風鈴の音に耳を傾けることもありました。しかし近年は異常気象の影響で、「ゲリラ豪雨」や「線状降水帯」という非常に強い雨の影響で、時には交通機関に影響を与えたり、洪水や土砂崩れが起きたりして社会生活がストップしてしまうことも多々あります。「夕立」という言葉も天気予報で聞かなくなりましたし、気象現象も見られなくなってきたように感じます。

その他にも、毎日のように近所の公園や空き地で行っていたラジオ体操も日数を減らしたりコロナの影響で中止にしたりするところもあるようです。またあまりにも暑い日が続くため（虫も休んでいるのでしょうか）虫かごや虫捕り網を担いで昆虫採集をしている子どもたちの姿も見かけなくなりました。虫を捕る場所も少なくなってきたこともその理由に挙げられると思います。

夏の風物詩は減りつつありますが、いつの時代でも子どもたちは元気に楽しく夏休みを過ごしていることに違いはありません。子どもたちの元気な姿が戻り、明るい声を聞くだけで私たちも大きな力やエネルギーをもらいます。８月から９月にかけて、まだ残暑が続くと思いますが、健康に安全に過ごしていきたいと思っております。またコロナの感染拡大防止に努め、子どもたち一人ひとりが充実した学校生活を送ることができるよう配慮していきたいと思います。保護者の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。